



TITLE:

シロハラ(ツグミ科)の京都大学瀬戸臨海実験所構内での窓ガラスへの衝突死

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. シロハラ(ツグミ科)の京都大学瀬戸臨海実験所構内での窓ガラスへの衝突死. くろしお 2015, 34: 31-32

ISSUE DATE:

2015-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200640>

RIGHT:

発行元の許可を得て登録しています.

シロハラ（ツグミ科）の京都大学瀬戸臨海実験所構内での 窓ガラスへの衝突死

Shin KUBOTA : Death by collision to a window of a small bird *Turdus pallidus* (Turdidae)
in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University

久保田 信

和歌山県西牟婁郡白浜町に位置する京都大学瀬戸臨海実験所研究棟の2階の透明な窓ガラスに、まだ成鳥になっていない1羽のクロツグミ *Turdus cardis* が激突し即死した（久保田, 1997）。この他、死亡はしなかったものの、鳥が窓ガラスに激突して落下し、しばらく飛翔できなかった2例がある。それらは、1羽のスズメ *Passer montanus* が研究棟1階の実習室の窓ガラスに当たって落下した例と（山守・久保田, 2013）、1羽のシロハラ *T. pallidus* が研究棟1階の男子トイレの窓ガラスに衝突して落下した例である（久保田, 2014）。これらの3例の記録は、衝突音を聞いてから現場に居合わせたものである。今回、瀬戸臨海実験所構内で、衝突時に現場には居合わせなかったものの、小鳥の衝突死が再び起こったと推察できる1例に遭遇したので記録する。

2014年のバードストライク

2階建ての瀬戸臨海実験所研究棟の久保田 信研究室の丁度真下（図1）に、2014年11月14日午後2時15分頃、ツグミ科に属するシロハラ（図2）が死亡していた。恐らく衝突死したのであろう。シロハラは極東のウスリ・アムール川流域や中国東北部、および朝鮮半島などで繁殖した後に、冬鳥として我が国の主に本州中部以南に渡来することが知られる渡り鳥である（上野, 1997）。以前に筆者の目で同じ実験所構内で衝突したことがある（久保田, 2014）。今回のシロハラの死亡箇所のすぐ傍で、以前にクロツグミが激突死（久保田, 1997）、この区域ではこれで2度目の死亡例になる。シロハラは冬鳥であるが、



図1 窓ガラスで衝突死したと推察できるシロハラが落下していた京都大学瀬戸臨海実験所研究棟のすぐ北側（2階左端の久保田研究室の直下の地面で死亡）



図2 瀬戸臨海実験所研究棟の窓ガラスで衝突死したらしいシロハラ

クロツグミは夏鳥なので、条件さえ整えば季節に関わりなくこの様なバードストライクが今後も起こりうるかもしれない。

引用文献

久保田 信. 1997: 和歌山県白浜町で事故死したクロツグミ. 南紀生物, **39**(1), 28.
———. 2014: 小鳥のシロハラ (ツグミ科) の京都大学瀬戸臨海実験所構内の窓ガラスへの衝突. くろしお, (33), 25.

上野吉雄. 1997: シロハラ. 樋口広芳 (編) 日本動物大百科第4巻 鳥類II, p. 103, 108, 平凡社, 東京.

山守瑠奈・久保田 信. 2013: 京都大学瀬戸臨海実験所構内でスズメ (スズメ科) の窓ガラスへの衝突. くろしお, (32), 27.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所